

生涯学習課 NEWSLETTER



福島県文化スポーツ局 生涯学習課

TEL 024 - 521 - 7404

FAX 024 - 521 - 5677

E-mail shougaigakushuu@pref.fukushima.lg.jp

NO.7 R1,10,23

ニュースレターの概要

このニュースレターは、平成27年度に開催された「全国生涯学習ネットワークフォーラム」の後継事業として、震災からの復旧・復興や地域課題に取り組んでいる県内の関係者等の情報を共有し「学びをひろげ、つなげる、いかす」ため、年に2回発行するものです。

また、皆様方からも、日常的な取り組みや様々な企画のもと実施されたイベント等、生涯学習に関する情報ならどんなものでも結構です。多種多様な情報をぜひ当課までお寄せください。

今後も、互いに情報を共有し合い、継続的な取り組みが推進されるよう積極的につながっていきましょう。

笑顔・夢・感動あふれる 元気なまちづくり

元気なまちづくり

今回、取材をしてきた「はらまちクラブ」は、南相馬市民及び隣接する地域の人々に対して、スポーツ活動・文化活動の振興を図るとともに、社会参加を促進する事業を行い、公益の増進に寄与することを目的に活動する団体である。

震災後も様々な実践を行い、南相馬市の元気なまちづくりに取り組む、理事長の江本節子さんから、これまでの経過や、まちづくりへの想い、これからの意気込みなどについて話を伺った。



元気なまちづくりを目指して

「はらまちクラブ」結成

江本さんは、当初、スポーツ少年団（バレーボール）指導者として、子どもたちの健全育成に関わってきた。その活動を通して、地域づくり、まちづくりを強く意識するようになり、まちづくりの一環として、地域スポーツクラブの活性化へ向けた取組の必要性を感じた。そこで、NPO法人を立ち上げ、行政と連携しながら、現在まで活動を続けている。スタッフは、常勤二人、パート三

人と多くの無償ボランティアの方々に支えられてきている。理事長自身も無償ボランティアの一人である。



南相馬市元気モールの「はらまちクラブ」

しんさいふっこうニュース

「めぐりあい」

「はらまちクラブ」では、東日本大震災、原子力災害当初の平成二三年四月から、しんさいふっこうニュース「めぐりあい」を発行している。これは、震災直後、南相馬市民にまったく市民の情報が入らなかったことを危惧し、始めた事業である。避難した人、南相馬市に残った人、そのほか多くの災害支援をしてくださる方々がこの情報誌で繋がっていた。

「震災当初、まったく情報が入らず、人権が侵されていると感じた」と江本さんは語る。体育館で避難生活を送る市民のインタビューを掲載したところ、首都圏在住の方が、この「めぐりあい」を読んで、知ることができなかつた身内の情報をもらえて助かったとの感謝の言葉をいただいたエピソードも語る。

現在は、復興へ向かって取り組む小、中、高等学校の取組や、様々な行事、事業内容を掲載して配布している。



めぐりあい第32号

寄り添う支援から

自立するための支援へ！

「復興するということは、被災者自ら立つ（＝自立する）ことだと思ふんです」と江本さんは言う。

「被災された方々が将来自立することができるよう支援し、それを実現することが大切なこと」と江本さんは付け加えた。

「はらまちクラブ」を核として活動している団体や事業がたくさんある。これからは市民、団体や行政と連携しながら南相馬市が元気になるまちづくりに取り組んでいく。



第10回ビーチ遊スポ 2019
海開き チアリーダー出演

本との出会いを

提供する！

「会津美里町図書館」

会津美里町は、福島県の西部に位置し、会津高田町、会津本郷町、新鶴村の旧三町村が合併して平成十七年十月に誕生した町である。

今年度、会津美里町に新庁舎及び複合文化施設「じげんプラザ」が新設され、施設内には、町内初の図書館「会津美里町図書館」がオープンした。図書館の立ち上げや運営の中心として携わってきた、地域おこし協力隊北村さん、矢留さん、教育文化課歌川さんにお話を伺った。



地域おこしの拠点

会津美里町図書館オープン

町役場、公民館、図書館等の機能の一つにして運営する複合型施設「じげんプラザ」を設立するにあたって、貸し出しだけの機能を持っていた公民館図書室を、図書館として地域おこしに役立てようと決まったのが立ち上げのきっかけである。その中核として携わったのが、「地域おこし協力隊」のお二人である。

会津美里町が全国から募集を行い、選考を経て、「地域おこし協力隊」図書館班として、平成三十年四月から図書館立ち上げに携わり、現在は図書館職員として活動している。「立ち上げまでの期間が十ヶ月程だったので、レイアウトのアドバイスや本の選書、システムの構築、条例整備、ルールづくりなど、できる限りのことをやりました」



図書館入り口

生涯学習の拠点としての図書館づくり

会津美里町は、町役場本庁舎、公民館、大ホール、図書館等、複合文化施設としての機能を生かした拠点づくりに取り組んでいる。歌川さんは、「図書館は、住民が無料で利用できる施設です。また、図書館の向かい側には談話室もあります。ここも自由に利用することができますので、座ってくつろぎながら借りた

本を読むこともできます。飲食もできるんですよ」

と、複合施設の利点を話し、フリースペースや図書館を利用している住民が公民館の講座や生涯学習の各種事業を観て、参加を考えるようになってほしいとの思いを語る。



じげんホール見学中の小学生

また夏には、フリースペースで少し涼んでから図書館で本を借りる高齢者や、自主学習に利用する学生も見受けられ、クールシェア、ワームシェアとしての利用も促進している。

地域に根ざした

図書館を目指して！

町の郷土史や歴史について調べている住民も多い。「歴史や文化に接する場を提供できるように工夫しています。しかし、開館して間もないので、探している資料を提供できず、要望に応えられない時もあります」

「これから蔵書の数を増やしていきたい」

と、北村さん、矢留さんは意気込みを語っていた。

図書館を知ってもらうための様々な企画も行っている。夏に実施した図書館講演会もその一つである。三部構成で企画し、それぞれの講師に講演、天体望遠鏡を使った夜空観察等を行ってもらった。第一部には約三〇〇人、第二部には、約一〇〇人、幅広い年齢層の住民が参加した。図書館では、あらかじめ宇宙や星空に関する図書を購入し、企画、展示を行った。参加した学生や一般の方々が宇宙に興味を持ってもらえたらとの思いがこもった企画である。

最後に歌川さんは、「この施設を起点として、公民館事業や図書ボランティア、町づくりに興味や関心を持ってもらえるように取り組みたい。一人暮らしの高齢者や、普段外出をしない皆さんに少しでも利用してもらえれば拠点にした」と、これからの展望や、取り組みを語っていた。



企画・展示コーナーの1つ

